稱讃二四九号

二〇二三年九月一日発行

発行　浄土真宗本願寺派　稱讃寺
〒一二一―〇〇七五
東京都足立区一ツ家三丁目五番二〇号
TEL　〇三―五二四二―二〇二五
FAX　〇三―五二四二―二〇二六
HP　shousanji.com

凡夫のこころ

み法聞く身となるまでは
己が心のおろかさを
知らず我こそ善人と
思い上がっていたけれど
気づいてみれば恥ずかしい
知恵も力もないくせに
己が力でなにもかも
出きるやれると思い込み
生きているのも我が力
食うているのも我が力
誰の世話にもならんぞと
力む我が身の身体さえ
生れた時から死ぬるまで
人のお世話になりどうし
吐く息、吸う息、みな空気
水一滴もみ仏の
恵みなければ、愚痴小言
我が身勝手を棚に上げ
人の落度のあらさがし
よその秘密を聞きたがり
言うなと言えば言いたがる
人が困れば、うれしがり
友の成功、ねたましい
少しのことを恩にきせ
受けたご恩は、忘れがち
見よと言われりゃ見たがらず
見るなといえば、なお見たい
するなと言えばしたくなり
せよと言われりゃ嫌になる
天の邪鬼ではないけれど
素直になれば敗けたよに
思う心のひねくれを
どうすることも出きぬ我
あぁはずかしや、我が心
地獄行きとは我がことよ
それを地獄にやるまいと
四十八願　手をひろげ
救わにゃおかぬご誓願
弥陀のご恩の尊さを
知らせ給える祖師知識
ああ、ありがたや
南無阿弥陀仏

（作者　不詳）

このような方こそ、白蓮華と言われる方なのかも知れませんね。

九月一七日（日）
へいわフォーラム２０２３

【講師】
渡部 陽一 氏
（戦場カメラマン）

【講題】
戦場からのメッセージを
あなたにーファインダー
越しに見た命の現場ー

【会場】
築地本願寺本堂

【日程】
一三…四五 講演
一四…四五 対談
一五…一五 終了

九月一八日（月）
千鳥ヶ淵全戦没者追悼法要

【日程】
一二…五五 中高生作文朗読
一三…一〇 作文表彰式
一三…一五 法話
一三…三〇 平和の鐘
一三…三五 法要

悲しみ痛みに共感できる
自分でありたい
『心のともしび』二〇二三年八月より

秋季彼岸会法要

善導大師は、「二河白道」の譬を話されるにあたって「一切の往生人等にまうさく」と仰られました。「一切の往生人」とは、今、既に、これからでも、仏法を聞く人々のことだと思います。その人にご信心があるかないかは関係ありません。

「南無阿弥陀仏」のお念仏を称え、聞く一人として、阿弥陀さまのご本願をご一緒に聞いて参りましょう。

〈日時〉
九月二十三日（土）午後二時

〈日程〉
一四…〇〇 おつとめ
『仏説無量寿経』
一四…五〇 お話し 住職
一五…三〇 茶話会
一六…〇〇 恩徳讃

※築地本願寺の親鸞聖人御誕生八五〇年・立教開宗八〇〇年慶讃法要のご懇志を当日受け付けておりますので、何卒、ご進納賜りますよう宜しくお願い申しあげます。

振込先 城北信用金庫 一ツ家支店
名 義 浄土真宗本願寺派 稱讃寺教会 代表 北村信也
口 座 普通 6176051

振込先 ゆうちょ銀行 店名 四四八（ヨンヨンハチ）店
名 義 キタムラ シンヤ
口 座 普通 2374851

本願相応(ほんがんそうおう)せざるゆゑ
雑縁(ぞうえん)きたりみだるなり
信心乱失(しんじんらんしつ)するをこそ
正念(しょうねん)うすとはのべたまへ
（『高僧和讃（善導讃）』）

この世の不思議

本願に自分が相応することが信心ですから、逆に本願に相応しない人、すなわち自分の心に自分を合わせようと思っている自力の人は、外から雑縁が来て心が乱れるわけです。いろんな縁に悩まされどうしということです。仏さまに護られるということがなく、煩悩に悩まされどうしです。そして信心が乱失する。信じたら本願に相応するのではなくて、本願に相応するということが信心です。仏さまにまかせる、従うということが信心です。

死ぬだけで仏ということは、臨終一念の夕べの時に仏になることです。仏になるということはお浄土に着いたということですが、お浄土に着いたらすぐこの世へ帰ってくるのでありまして、それが還相回向です。私たちは、ただお浄土へ行くことばかりを考えていますけれども、お浄土へ着いたら、それで一切の終わりかというとそうではなくて、それがこの世への還相回向の道の始まりです。生死動乱の世界へ還ってくる門が開くということです。だから浄土着は浄土発です。もう一度現世へ来て、生死の中に迷っている人びとをお浄土へ導くための働きが始まるのです。

ところが、この還相回向の話を聞くと、たいていの人は何となく遠い未来のことのように考えるのではないかと思います。まだまだ死なないと思っているから、還相回向というと何となく夢物語になるのでしょう。しかし本当はそんな遠い未来のことではありません。往相回向にはどこか現実感があるけれども、還相回向というとお浄土へ行った人が還ってくるということだから、まだ行っていない自分にはだいぶ先の話だと思うかもしれません。しかし、今夜死んだらもう還相回向が始まります。お浄土に生まれた人は仏に成って、もうこの世へ還っていらっしゃるのです。

この真理を、親鸞聖人は『教行信証』教文類で、

つつしんで浄土真宗を案ずるに、二種の回向あり。一つには往相、二つには還相なり。
（『註釈版聖典』一三五頁）

と言われたのです。和讃では、

安楽浄土(あんらくじょうど)にいたるひと
五濁悪世(ごじょくあくせ)にかへりては
釈迦牟尼仏(しゃかむにぶつ)のごとくにて
利益衆生(りやくしゅじょう)はきはもなし
（『浄土和讃』『註釈版聖典』五六〇頁）

ともおっしゃったのです。

そうしますと、この世はたんに凡夫だけが集まっているところではないわけです。お浄土から還ってきた人にお会いしているところでもあるわけです。お浄土に行った人びとがもうここへ還ってきていて、その還相回向を私どもはすでに受けているのでありましょう。私はもう還相回向をしていますとは言えませんけれども、仏になられた方々の還相回向を私が受けているということは言えると思います。じっさい、たくさんの方々の還相回向の利益を受けて生きているのが、現世の私たちの生活ではないでしょうか。

たとえば、親鸞聖人は、王舎城の悲劇について、あの王舎城のドラマを演じた人びとは皆、

振込先　城北信用金庫　一ツ家支店
名　義　浄土真宗本願寺派　稱讃寺教会　代表　北村信也
口　座　普通　6176051

振込先　ゆうちょ銀行　店名　四四八（ヨンヨンハチ）店
名　義　キタムラ　シンヤ
口　座　普通　2374851

還相回向の菩薩たちだと考えておられます。阿闍世にしても提婆にしても、お釈迦さまの法を謗り、あるいは自分の親を殺すようなことをした人びとです。しかし、まさしく仏法を破壊するようなことをやったこれらの人びとが、実はそのドラマを演ずることによって、人間の罪深さ、われわれの世界の絶望的な悪というものをわれわれに教えてくださって、それを救ってくださる阿弥陀さまの本願のかぎりない深さというものを明らかにする尊い仕事をしてくださった。そういう菩薩方だから、親鸞聖人は尊称をつけて、これらの人びとの名を記していらっしゃるのです。阿闍世をそそのかした提婆を提婆相回向のはたらきをこの世で受けているに尊者というふうに尊称をつけておられるとちがいありません。私たちが仏法に入れたいうことは、お浄土から還ってきた人がこのはそういう還相回向の菩薩さま方の力での世でわれわれに仏法を教えてくださる姿ありましょう。たとえば、阿闍世のようにを見られたからでしょう。この現世という極悪非道のことをやった人がただの悪い人ところはそういう不思議なところだという間ではなくて、韋提希を仏法に目覚めさせることを、還相回向の思想は語っているようるための方便のはたらきをしておられたのに思うのです。

しかし、これはどこまでも信心の立場からだということになってくると、この世というところは実に不思議な相貌を呈してまら言えることであります。世の中を眺め渡りります。仏法は、実にわれわれが今生きてして、あの人は還相の菩薩さまだがこの人いる、この世の不思議のことを説いているはどうだろうか、というようなことを言いのだと思います。

仏法を聞かない人は、ただあの世だけが出したら、これは仏法の話でなく興味本意の話になってしまいます。これでは自分自身の問題ではなくなりますから、すべてがまちがってくるのです。仏法は、他人のことを眺めた途端にもう仏法ではなくなるのです。ところが、時どきそういうことを言う人がいます。むかし、「今日はめったにない参詣しないうちの嫁が本堂に来ていますからら、ご院主さん、ひとつあの嫁に説教してください」と言ったお爺さんがおられましたけれども、他人のことを言ったとたんに、もう仏法はなくなります。仏法はいつもこの私自身の問題です。

そういうわけで、私たちはさまざまな還相回向のはたらきをこの世で受けているにちがいありません。私たちが仏法に入れたのはそういう還相回向の菩薩さま方の力でありましょう。たとえば、阿闍世のようにの人が亡くなったことは本当に悲しいことだ、と乗信というお弟子に書いておられます。けれどもその次に、

生死無常のことわり、くはしく如来の説きおかせおはしまして候ふうへは、おどろきおぼしめすべからず候ふ。

（『親鸞聖人御消息』第一八通　『註釈版聖典』七七一頁）

と記しておられます。ところが、われわれ不思議なのです。だから、臨死の現象なんかに関心を持ってしまうのです。他界は不思議なところで、死ぬ時に何か不思議なことが起こるのではないかと考えるわけです。ところが、毎日毎日起こっている現世のことはすこしも不思議ではない、あたりまえだと考えています。この世にいるのはよく知った人たちばかりだ、仏さまなんか一人もいない。お浄土に行ったら不思議なことがあるのだろうと、ぼんやり空想している。けれども、それは本当の仏法ではないと私は思います。不思議は、すでに今ここに起こっているのです。

八十八歳の親鸞聖人は、『末灯鈔』の中の文応元年十一月十三日付のお手紙（『親鸞聖人御消息』第一八通　『註釈版聖典』七七一頁）で、去年から今年にかけて大勢

振込先　城北信用金庫　一ツ家支店
名　義　浄土真宗本願寺派　稱讃寺教会　代表　北村信也
口　座　普通　6176051

振込先　ゆうちょ銀行　店名　四四八（ヨンヨンハチ）店
名　義　キタムラ　シンヤ
口　座　普通　2374851

はたいてい人が死んだ時だけ驚いて、生きていることにはすこしも驚かないのです。

あるところで、九十歳の人が亡くなった時のお葬式で、九十一歳の老人会長さんが驚天動地のことが起こりましたと、弔辞に述べられたことがありました。現代人は死ぬことだけがさも不思議なことのように驚きますけれども、本当はこの命が今あること の方が不思議なのですね。今日の命が私に与えられているということに驚かなければならないはずなのに、そのことにはすこしも驚かないであたりまえだと思っています。生きていることはあたりまえだと思い、死ぬことに出会うと、とんでもないことが起こったと思ってしまいます。それは如来さまの説かれたことを忘れているからだ、と聖人は言われるのです。

中世の文献の中で「自然のこと」とあるのは、みんな死のことです。武士たちは出陣の時、「自然のこと」があった説きにはこうして欲しいというような遺言を書いていますが、そういう自然とは討ち死にのことなのです。死ぬということはあたりまえのことであって、生きていることの方がむしろ偶然のことだと、昔の人びとは思っていたわけです。

ところが、近代社会では反対に、生きていることが自然のことで、死ぬことが不思議なことになってきました。どこかで人間の考え方が逆転したのでしょう。そして現代社会になると、もう逆転したということもわからなくなって、これがあたりまえになってしまいました。それでは、そのあたりまえの考え方で現代人は本当に安心して生きているかというと、決してそうではないわけです。ということは、この考え方はどこか根本的に間違っているということでしょう。本当にその考え方が真理なら、その考え方ですこしも不安なく生きられるはずですけれども、死がやってくると、にわかに慌て出すのですから、その考え方は本当ではないということになりますね。

（『信心の伝統　高僧和讃を読む　下』大峯顯氏著）

この御和讃から「還相回向」のお話に展開していくとは思いもしませんでした。

「本願相応」とは、『正信偈』では、「慶喜一念相応（後）」とあり、阿弥陀さまのご信心をいただいた」と言うことでもあります。阿弥陀さまのお心（ご信心）とは、「本願」「誓願」のことであります。

阿弥陀さまのご本願に相応するとは、「阿弥陀さまの願いに適う」とも良く言われます。「願いに適う」「願いに応える」ように生きると言われると、阿弥陀さまに褒められるような心・行動となること、善い人間になることを意識してしまいますが、阿弥陀さまの願いとは、善い人間になってくださいという「願い」なのかと思ってしまいます。

阿弥陀さまのご信心頂いたら、出来るだけ「利他行」が出来るようになると言う領解から、「還相の菩薩」として、現世において、生身のまま、「利他行」が出来るということで、「還相回向」に展開したのだと思いますが、大峯先生は、生身の私自身が還相回向のはたらきが出来ると仰っておられるのではなく、阿弥陀さまの「往相回向」のはたらきと同時に、阿弥陀さまの「還相回向」のはたらきを、有縁の方々から知らされ、味わえることがご信心だとおっしゃっておられるのではないでしょうか。信心を我が物にしてしまうことが、本願と相応しないことであり、心乱れており、利他行が出来ていると満足してしまうことを諭されているご和讃だと思います。

振込先　城北信用金庫　一ツ家支店
名　義　浄土真宗本願寺派　稱讃寺教会　代表　北村信也
口　座　普通　6176051

振込先　ゆうちょ銀行　店名　四四八（ヨンヨンハチ）店
名　義　キタムラ　シンヤ
口　座　普通　2374851

父の残したお聖教

福間　義朝　氏

稲谷享さんという八十四歳の方のお話です。稲谷さんのお父さんはルソン島で、四十歳で戦死されました。帰ってきたのは遺骨ではなく、石ころが入っている木箱一つだったそうです。母と四人の子が残され、長男の稲谷さんは六歳でした。

今から三十年ほど前、稲谷さんが五十歳のころ、稲谷さん宅へ報恩講のお参りをしてお茶をいただいておりますと、稲谷さんが数冊の本を持ってこられました。蔵を整理していたら、お父さんが出征前に呼んでいた本が出てきたそうで、全て仏教書でした。その中に、何度も読んで横から見たら真っ黒になっている赤い表紙の本があり、それは、『仏説無量寿経』などの経典、親鸞聖人の認められた書や蓮如上人のお言葉、『歎異抄』などの大切な著述が載っているお聖教でした。

その中でも特に真っ黒になっているページを開くと、『安心決定鈔』でした。これは、蓮如上人が浄土真宗の要が示されているとされた書です。そしてそこには赤鉛筆でびっしり線が引かれたありました。出征前まで必死に読んでおられたのでしょう。そして、そこに私はまつ毛を見つけました。まつ毛が落ちているということは泣きながら読んでおられたのだと思います。稲谷さんは驚いてそのまつ毛を大切に手ティッシュに包まれました。お骨の無いお父さんの遺骨に代わる、とても貴重な唯一のものです。その時、稲谷さんは思われました。父の拠りどころであったこの『安心決定鈔』を読めるようになりたいと。

そこで、稲谷さんは中央仏教学院の通信教育で勉強され、得度をされて僧侶となり、さらに僧侶の教師資格もとられました。今は法座の折にはいつも内陣でおつとめされます。そして、寺院運営の中核となって働いてくださっています。何十年も前に亡くなった親が、残していったわが子をちゃんと育て導いておられるのです。

私は住職となって四十年以上たちますが、その間ご門徒の方々から、彼岸、すなわち浄土があること、先だった方は仏となって私たちを導いているのだということを何度も知らされました。

浄土の反対は地獄ではありません。地獄の反対にあるのは天国で、地獄と天国の間を行ったり来たりするのが迷いの境涯です。浄土は、今、ここに、はたらいています。南無阿弥陀仏となって。私の口から出る念仏となって。そして、亡き人は、遺影のすがたではありません。「南無阿弥陀仏」の名号なのです。

『本願寺新報』二〇二三年九月一〇日号
「ご門徒さんから知らされたこと」より抜粋

関東大震災一〇〇年に思う

成田　智信　氏

残暑がまだまだ厳しいなか、ことしは関東大震災から一〇〇年の九月一日を迎えました。

先日、築地本願寺の法話会に出講させていただいた時に、本堂で開催されていた関東大震災から一〇〇年のパネル展示を見ました。大変よくまとめてくださっていて、学びの多い展示でした。そして、大震災当初に活動されていたさまざまな本願寺の活動を撮影した大変貴重な動画が流されていました。

多くのご門徒のみなさん、宗門校の学生さんたちが、そしてご本山では救援物資の調達や募金など、築地本願寺では被災現場

振込先　城北信用金庫　一ツ家支店
名　義　浄土真宗本願寺派　稱讃寺教会　代表　北村信也
口　座　普通　6176051

振込先　ゆうちょ銀行　店名　四四八（ヨンヨンハチ）店
名　義　キタムラ　シンヤ
口　座　普通　2374851

での救援活動に尽力されている姿などが鮮明に映し出されていました。

その中に、九條武子さまのお姿がありました

武子さまは第二十一代明如上人の次女で、仏教婦人会や社会活動に尽力されました。武子さまを映像で拝見したのは初めてでした。

このご縁に、第二十三代勝如上人のお裏方・大谷嬉子さまのご著書『慈光のなかで』の中から、武子さまのお言葉、そして、それをお味わいくださった嬉子さまのお言葉をご紹介したいと思います。

「救いのめぐみにかくれて、つねに悪しきを重ねているのは悲しい。私たちはほとけの慈悲に馴れて、ほとけを弄(もてあそ)んではならない。みずからの弱い貧しさをかえりみると同時に、めぐまれた救いのよろこびを味わう。弱き者こそ強くありたい。

あはれわれ
生々世々(しょうじょうせぜ)の悪(あく)をしらず
慈眼(じげん)のまへに
なにを甘(あま)ゆる

『無憂華』

武子さまの歌文集『無憂華』いあるお言葉です。この最後の歌を、嬉子さまが味わわれています。

「ああ、あさましい人間である私は、生き変わり死に変わりしている間に犯している悪をつゆ知らず、それをかえりみることもせず、み仏のお慈悲に救われることを当然のように思って、み仏に甘え切って日々を生きているが、そのようなことでよいのであろうか。いや、決してそうあってはならない」

関東大震災を体験された武子さまのお歌、それを六〇年ほど後（一九八三年）に嬉子さまが味わって書かれています。そして今、関東大震災から一〇〇年のこの時、私たちに語りかけているようです。

『本願寺新報』二〇二三年九月一〇日号
「みんなの法話」より一部抜粋

関東大震災朝鮮人虐殺事件
二〇二三年九月一日「報道ステーション」

一九二三年九月一日相模湾北西部を震源とするマグニチュード7.9の巨大地震が首都圏を襲いました。家屋倒壊や火災により、甚大な被害が発生し、死者は一〇万五千人にも上り、百年を迎えたこの九月一日、各地で追悼式典が行われました。犠牲者の数%は、震災後に流された誤った情報により、虐殺された多くの朝鮮半島出身者（中国人・共産主義者・方言で話す日本人も含む）らがいます。今年の夏、関東大震災を描いた絵巻が初めて公開されたそうです。描

かれているのは、軍人や自警団に襲われ、虐殺される朝鮮人とみられる人たちです。発見者の元専修大学教授の新井氏は、「官も民も一緒くたになって、官民一体で行われたと」。しかし、「朝鮮人が井戸に毒を入れた」そうした根拠のない情報（実は、政府が発信、当時の新聞等メディアも加わっている）が拡散した。

さいたま市見沼区でも「井戸に毒」の流言が広がり、一人の朝鮮人青年が虐殺された。事件当時、その地区の区長をしていたのが祖父と仰る高橋さんは、「祖父は、無口な人で、不必要なことは話さない人だった」と。非常時、大衆心理の恐ろしさを感じる。高橋さんは、二度とこのようなことがないよう、毎年、虐殺された姜さんの追悼を行っている。横浜の警察署長は逆に朝鮮人の方々を守ったらしい。私自身は、どのように思い、行動するだろうか。

振込先　城北信用金庫　一ツ家支店
名　義　浄土真宗本願寺派　稱讃寺教会　代表　北村信也
口　座　普通　6176051

振込先　ゆうちょ銀行　店名　四四八（ヨンヨンハチ）店
名　義　キタムラ　シンヤ
口　座　普通　2374851

稱讃寺　九月行事予定

六日（水）　のんのん法話会　一四時
一六日（土）　のんのん法話会　一四時
一七日（日）　へいわフォーラム２０２３
一四時　築地本願寺
一八日（月）　千鳥ヶ淵全戦没者追悼法要
一二時　千鳥ヶ淵墓苑
二三日（土）　秋季彼岸会法要　一四時
二六日（火）　のんのん法話会　一四時

秋彼岸（あきひがん）

いのち　灯（ともしび）が

相続（そうぞく）されていく

二〇二三年「心のともしび」九月カレンダーより

築地本願寺　親鸞聖人御誕生８５０年　立教開宗８００年　慶讃法要

上記にかかるご懇志のご進納をお願い申しあげます。
ひとまず、９月２３日の秋季彼岸会法要までを期限として、築地本願寺に納めさせていただきたいと思います。
尚、引き続きご懇志を２０２４年3月３１日まで受け付けております。
何卒、ご協力賜りますよう宜しくお願い申しあげます。

①城北信用金庫一ツ家支店
名義　浄土真宗本願寺派
　　稱讃寺教会　代表　北村信也
口座番号　普通　6176051

②ゆうちょ銀行店名四四八
名義　キタムラ　シンヤ
口座番号　普通　2374851

③ゆうちょ銀行電信振替
受取人口座番号14430-　-23748511
おなまえ　北村信也（キタムラ　シンヤ）

編集後記（愚案）

福島第一原子力発電所の処理水海洋放出が実施されてから、中国本土から中国人の方が、日本に、抗議というか、嫌がらせというか、電話がかかってくると報道されていました。お店を経営しておられる方の中には、一回きりではなく、何度も掛かってくるそうでありました。困ったことだと思っておりましたら、九月一〇日午後五時頃、私の携帯に一通の電話があったようです。と言うのは、直接、応対してないからです。電話が鳴っていることに気づかず、携帯のメール等を見ようと思って、携帯を手に取って操作した時に気づいたのです。掛かってきていた電話番号を見ますと、何と、０８６（中国本土）でした。中身がわからないなあと思いましたが、不明で留守電に入っていました。聞いてみると、「すみませーん。こんにちは。（ちょっと間）こんにちは。（間）中国語でなんやらかんやら」とまくしたてて、切っていました。最初は丁寧な口調でしたが、本題は、語気を強めて、少し興奮気味に聞えました。これは、何を言っているか中国語で、さっぱり理解できませんが、例の中国からの嫌がらせ電話だなあと思いました。生活に不満があるんだと思いましたが、もし直接、電話を取っていたら、あわてふためいていたかもしれません。

私と言う者を知って、私に掛けてきたことではないでしょう。何かリストみたいな物（どこから入手したかと思うと恐いですが）からか、適当に電話番号を押したら、私の携帯だったのかも知れませんが、そういうことを〝偶々〟と表現します

でも、「遇（たまたま）行信を獲ば・・」「本願力に遇いぬれば」の「遇」は、阿弥陀さまからは、「必然」のことと心得ておきたいものです。

門信徒会費　6千円　お預かり管理費　5千円　永代使用積立金　5千円から